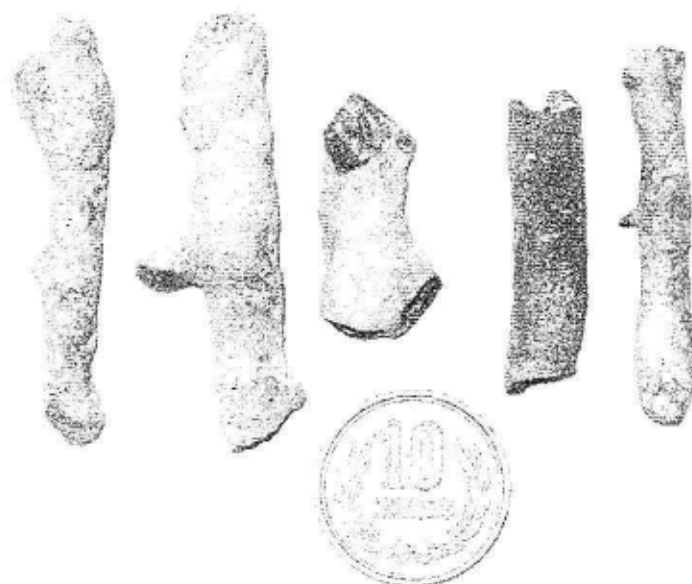


福光町の天然記念物

高師小僧（たかしこぞう）

みなさんは、下図のような面白い形の石を見たことがありますか？ 管状かんじょうをしていて、木の根のように見える石です。

これは、福光の天然記念物「高師小僧（たかしこぞう）」です。昭和47年、山本地区のものが、平成9年に岩木地区のものが天然記念物に指定されました。



福光町の天然記念物に指定されている高師小僧

（岩木地区産）

「高師小僧」は初め豊橋市の高師原（たかしばら）で発見され、その時の様子が幼児や動物に似ていたことから「高師小僧」の名がつけられました。豊橋市の「高師小僧」は、1957（昭和32）年に愛知県指定の天然記念物に指定されています。

高師小僧は「沼鉄鉱」とも言われ、次のようにしてできたものと考えられています。

昔、湖や沼の火山灰や砂・粘土などの土に生育していた植物の根や茎の周りに地下水に溶けていた鉄分が褐鉄鉱（ $FeO \cdot OH$ ）として付着し、やがて本物の植物が腐敗してなくなり、中心部に穴が空いて管状になり高師小僧ができました。

このようにしてできた褐鉄鉱は日本の各地に見られ、高師原以外の場所でできたものも「高師小僧」と呼ばれています。

鉄分が多く赤茶けているのが特徴で、高師小僧の形は図のように棒状・樹枝状など、様々な形態をしたものがあります。自然がつくった形の不思議さ・面白さを感じますね。

富山県内では、福光町以外に伏木などでも採集されたことがあり、平成16年3月末まで富山市科学文化センター2階ロビーに展示されています。

（福光町産の高師小僧については、土生居弘さんに教えていただきました。）

（赤羽久忠）

富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

電話：076-491-2123

平成16年2月1日発行